



モリカワペーパー株式会社

代表取締役社長・MORIKAWA EMIKO

森川 江美子さん

紙と加工で、
ごきげんな生活と次の世代に
つながる会社を目指して

仕事の形も働き方も 時代に合わせて変えてきた

モリカワペーパーの始まりは、曾祖父が営んでいた「森川合紙所」です。戦後に祖父が事業を立て直し、その後、父が引き継ぎました。私は五代目として、この会社に関わっています。

これまで日めくりカレンダーの台紙、パチンコ台の部材、パズルなど、その時代に合わせて様々なものをつくってきましたが、「紙を加工する」という軸は、創業以来変わっていません。

質を高め、現在は20・30代のこの業界としては比較的若い世代が中心となっており働いています。

紙の加工技術の 新たな可能性

私たちの仕事は、基本的にB to Bが中心ですが、転機となったのがボードゲームの仕事でした。2014年、個人の方から「オリジナルのボードゲームを作りたい」というお問合せをもらったのが始まりです。納品後、「イベントで、持ち込み分が数分で完売するほど好評だった」と連絡をもらい、自分たちの仕事が、新たな市場へ受け入れられたと実感しました。

当時、売上の約半分を占めていたパチンコ関連の仕事が激減し、紙加工の技術を、別の形で活用できないか模索していた時期でした。ボードゲームは、紙・印刷・加工の技術を総合的に駆使する分野です。特に、自社の主力であるロールエンボス加工と紙の貼り合わせ加工、その両方を同時に活かせる商材を発見できたことは、当社事業の大きな転機となりました。この経験をきっかけに、ボードゲーム制作を自社の新たな事業のひとつとして、取り組むようになりました。

紙と加工で、 社員も社会もごきげんに

SDGsという言葉が広まり始めた頃、紙加工の会社としてできることは限られる中でも、社会課題に触れるきっかけをつくれなにかと考え、脱炭素をテーマにしたボードゲーム「CN2050」を制作しました。「面白くなければ意味がない」を前提に、教育分野でも実績のあるゲームデザインに依頼し、大学とも連携しながら開発を進め、現在は企業研修や学校現場で活用され、第二版の制作も進行中です。

紙加工の業界は高齢化が進んでいます。だからこそ、若い人が楽しみな技術を受け継げる会社でありたいと思います。当社は若い世代の社員が多く、貼り合わせ加工などの基盤技術のほか、自社製品づくりに関わってもらっています。その中で、紙の可能性を身近に感じ、自分たちの仕事が世の中に届く実感をもてる環境が生まれています。

こうした仕事の積み重ねを大切にしながら、「紙と加工で、ごきげんな生活をつくる」を軸に、次の世代につながる会社を目指していきたいと思えます。

Column

＼ 愛用のアイテム紹介 /

専務のノート(オリジナル商品)



仕事だけでなく、プライベートで子供のことを書いたりもしていて、思いついたことをなんでもメモしています。100枚入りなので、なかなか使い切らず、気づくとずっと同じノートを使っています。

Company Data | 会社概要

MORIKAWA PAPER.

モリカワペーパー株式会社

【創業】1922年
【所在地】名古屋市西区菊井1-21-1
【TEL】052-571-3306
【URL】<https://morikawa-paper.jp/>
【事業内容】総合紙工業(エンボス加工、合紙、紙製品設計、製作、用紙販売)



これまでに制作したボードゲームなど。ロット数や質感、打ち抜きの要望にも丁寧に対応します(写真上)。紙の貼り合わせ作業やエンボス加工にも人の手は欠かせません。顧客の要望に応じた紙加工を行なうことができます(写真右下・左下)。